

令和5年度第2回瑞穂町地域公共交通会議

1. 開催概要

日時：令和5年12月26日（火）15：00～16：30

会場：瑞穂町役場庁舎4階委員会室（オンライン併用）

委員：

No	所属	役職	委員氏名	出席状況
1	瑞穂町	副町長	栗原 裕之 ★	出席
2	日本大学 理工学部 土木工学科	教授	大沢 昌玄 ☆	出席
3	瑞穂町寿クラブ連合会	会長	中村 憲一	出席
4	瑞穂町福祉作業所さくら	施設長	戸村 仁郎	出席
5	公募（町内在住）		小暮 彰	出席
6	公募（町内在住）		徳永 道子	出席
7	立川バス株式会社	運輸部計画課長	佐藤 祐浩	出席
8	西武バス株式会社	計画部計画課長	秦野 凌	出席
9	東京都交通局	自動車部計画課長	若田 瑞穂	出席
10	横川観光株式会社	代表取締役社長	山口 和彦	出席
11	武州交通興業株式会社	事業部部長	濱田 興紀	欠席
12	一般社団法人東京バス協会	乗合業務部長	米澤 暁裕	出席
13	国土交通省 関東運輸局 東京運輸支局	首席運輸企画専門官	鎌塚 俊充	出席（代理：関口達也）
14	立川バス労働組合	執行委員長	土岐 雅人	出席
15	国土交通省 関東地方整備局 相武国道事務所	計画課長	古川 克利	欠席
16	東京都 西多摩建設事務所	管理課長	高橋 伸子	出席（Web）
17	福生警察署	交通課長	杉本 伸幸	出席

★：会長 ☆：副会長

傍聴人：10人

次 第

1 開会

2 議事

(1) 瑞穂町コミュニティバス運行状況の報告について

(2) 瑞穂町地域公共交通のあり方検討について

(3) その他

3 閉会

2. 議事録

(1) 瑞穂町コミュニティバス運行状況の報告について

- ・令和5年10月までのコミュニティバス利用実績について、事務局より報告を行った。
- ・令和5年10月～11月に実施したOD調査の結果について、事務局より報告を行った。

【会長】

まずは調査を行った結果の報告であるが、質疑はあるだろうか。

【副会長】

資料の12頁などを見ていると、1日あたりの平均利用者数が0.0人のバス停の中でもグラフの棒がわずかにあるところと、全くないところがある。棒があるところは少数ながら利用があり、ないところは調査期間中の利用者がまったくいなかったということによいか。

【事務局】

仰る通りである。1日あたりの平均にすると0.0人にはなるが若干数の利用があったバス停もあるが、「滑走路下」などは調査期間を通して1人もいなかった。

(2) 瑞穂町地域公共交通のあり方検討について

- ・第1回地域公共交通会議の際に示された運行評価基準に沿って、箱根ヶ崎・長岡コースと武蔵野コースは令和6年9月の実証実験終了までの運行とし、以降は代替サービスを導入する方向で検討を進める旨について報告された
- ・代替サービスの検討の考え方として、①箱根ヶ崎駅に乗り入れること、②有償運行とすること、③検討するエリアは武蔵野・箱根ヶ崎地域とすること、④現行の運行経費を上限に、利用促進に向け運行サービスを高めること、⑤小型バスではない車両を導入すること、の5つが示された
- ・代替サービスの候補として①デマンド交通（乗合タクシー）、②自家用有償旅客輸送によるグリーンスローモビリティ、③タクシーを活用したサービス（タクシーチケット）、の3つが提示された

【会長】

今後のあり方、方向性についての報告であるが、質疑はあるだろうか。

【委員】

代替サービスの検討状況が22頁で示されているが、なぜこの3つかという理由が明確ではないように思う。細かい道まで入っていけるという点ではマッチしていると思うが、まずは現在実証実験運行しているコミュニティバスをなぜ利用しないのかなどをアンケートで把握してから、適合する手段を検討すべきではないだろうか。

【事務局】

令和4年度に沿線住民3,000人に対してアンケートを実施しており、その中でバス停まで遠い、そもそも必要としていないなどの意見をいただいた。使われない理由としては、「バス停まで遠い」、「使いたい時間にバスが来ない」、「本数が少ない」、と言ったところであった。また利用者にもアンケートを実施しており、やはり利用が少ない地域は「立川バス等の路線バスを利用している」、または「箱根ヶ崎駅を目的としていない」、「使いたい時間に使えない」、という意見があった。そのような意見を踏まえて、利用が少ないところの交通を確保するために何が必要か検討し、3つを代替サービスの事例として挙げた形である。地域ごとの意見を聞くという点で、来年1月に実施する意見交換会での意見を取り入れながら方向性を示していきたい。

【委員】

元々アンケートを実施していて、地域の悩みどころを把握していたということで承知した。

【委員】

意見交換会はどのような形で実施する予定なのか。

【事務局】

令和4年の春先に実施した際と同じような形で、今どのようなことに不便を感じているのかなどを、意見を対立させるような形にならないよう、皆さんを巻き込んでいながら実施したい。またOD調査などによって数字は明らかになっているので、どう解決していくのか、何が必要で何が必要でないのかという点も含めてお話できるようにしたい。

【委員】

前は4箇所実施したように、各地域で行う予定なのか。

【事務局】

その予定である。1月24日（水）に武蔵野コミュニティセンター、1月25日（木）に長岡コミュニティセンターと瑞穂町民会館、1月28日（日）に元狭山コミュニティセンターの4箇所で実施する。

【副会長】

残す路線は現在の形態のまま運行を続けるのか。利用者の少ないバス停もあるので、本格運行に移行するにしても実証実験運行を継続するにしても、見直しは必要かと思う。もう1点だが、また代替サービスを導入するにしても、今後ずっと継続していくのかどうかなどの検討にも、その評価は必要である。

【事務局】

1点目の継続する路線の見直しについてだが、OD調査によって元狭山・長岡コースであればJR八高線よりも西側、石畑・殿ヶ谷コースであればジョイフル本田西以降などは利用があまりないということがわかっている。ただしまったく利用が無い訳ではなく、一部定期券を購入して通勤・通学等に使っている方もいるので、そういった点も考慮しながら必要な部分、不必要な部分、より利用が見込める部分などを精査したい。2路線を代替サービスに切り替えるとなると全体的な見直しも必要になるので、今回の分析結果や地域の意見、JR八高線のダイヤ改正などを踏まえながら適切に運行計画を見直していきたい。また2点目の代替サービスに切り替えた際の評価基準については必要だと考えている。地域にコミュニティバスという形態が根付かなかったのか、そもそも行政が提供するような交通サービスを必要としていなかったのかを分析し、必要がない地域については路線バスの事業者を支えて頂けるのであれば、行政が手を出さなくてよいと考えている。

【委員】

長岡地域、武蔵野地域の方は羽村・福生方面に向かうライフスタイルが定着しているので、今後コミュニティバスが廃止になり、デマンド交通等に切り替えたとしても、あまり利用は望めないと思う。したがって、一気に切り替えるよりも実験的な形で行わないと無駄が生じるのではと感じる。

【委員】

同じことを考えており、もともと長岡地域にはバスが1日40本以上走っており、人口密度も高いが利用がない、ということは必要とされていないということだと思う。その予算を他のことに当てた方がよいのでは、というように感じる。

【事務局】

ご指摘頂いた通り、本当に代替サービスが根付くかは見えていないが、町としては地域の公共交通を充実させたいという思いがあるので、まずは代替サービスとして提案させていただく。ただしコミュニティバスのように長い期間をかけての実証実験というよりも、時間と基準を明確に定めた上で馴染まないようであれば早めに終了する考えで臨みたい。

【委員】

デマンド交通やタクシーなど調べてもらったが、新潟などで第一交通がやっているような高齢者に評判のいい交通手段を検討することは可能だろうか。

【事務局】

対象が誰になるかによっても、交通施策として妥当かどうか変わってくるので、事例を収集して検討の余地があるか考えたい。情報提供をいただけるとありがたい。

【会長】

地域公共交通会議としては瑞穂町で完結させないといけない。いつも福生病院に行きたい、という意見が出ると思うが、そういう話になると交通施策ではなく、福祉施策の中の移動支援の範疇に入ってくるので、線引きが難しい。交通施策もライドシェアの解禁など世の中が動いているが、行政でこのようなサービスを提供してほしい、と依頼があっても、バス業界・タクシー業界の人手不足が取り沙汰されており、受けられないようなケースが出てくる。利用者の声とともに、運行事業者の声も尊重した上で公共交通を確立していかないといけない。

【委員】

やりたくても人がいない、という状況が最近が多い。応募は来るのだが、採用には至らないであるとか、若い人がバスの運転手になりたがらないという状況であり、今後は運行本数を減らしていくことも出てくる可能性はある。箱根ヶ崎駅から福生病院については、路線バスが1日55本走っているの、そちらを利用いただくのがよいと思う。

【会長】

直接ドアツードアで福生病院の玄関口まで、というのはなかなか厳しいものがあると思う。

【委員】

せっかくの機会なので、代替案としてあったグリーンスローモビリティが瑞穂町に馴染むものなのか、交通局さんにお聞きしたい。

【委員】

路線バスのコミュニティバスが入れない道であるとか、大きな車両が不要なところに対しては1つの手段ではあると思う。

【委員】

幹線道路を走る必要があるということで、20km/hだと渋滞を招くなどのデメリットがあるということだが、やはりコースが問題になってくるのか。

【会長】

あとは担い手となる団体の有無である。ニュース等で見る限り特定の団地の自治会などを中心として組織して、団地の入口まで、というケースはあるようだ。

【委員】

そういったところでは行われているけども、駅に入るには幹線道路を通らないといけないので、その手前で路線バスに乗り継げるような場所があるとよいかもしれない。

【会長】

幹線道路に入っていくのはなかなか難しく、電車の駅が核としてあって、そこから路線バスが走っていて、その停留所から脇道に入っていくのをカバーできるかというところだと思う。

【委員】

町の形態に適していないように思う。

【委員】

西武バスの沿線自治体でも実証実験を行っているところがいくつかあるが、空調が付いておらず暑い・寒いというのであるとか、バリアフリー対応していないというのを耳にするので、将来高齢の方が乗るにあたって課題になってくると思う。先日青梅市の地域公共交通協議会に出席し、グリーンスローモビリティの報告もあったのだが、仕切りがなく、落ちそうな不安があるなどの声もあったので安全面も難しさを感じる。また運行事業者をどうするのかという部分だが、乗務員の体調管理という面でもそういった環境で運転させるのか、というところ踏まえて検討する必要がある。もう1点、モビリティの棲み分けという意味でも、限られた二種免許の保有者で賄っていく必要があるのでは、目的地まで一発でいきたいというご希望はあると思うが、ご理解をいただきながら共存を目指していかないといけないのかなと思う。

【委員】

グリーンスローモビリティを完全に否定するわけではないが、代替手段にはなり得ないと思う。車体がゴルフカート状のものでは雨にもあたるので、毎日使うものとしては厳しいと感じる。

【会長】

横川観光さんではあきる野市でデマンドを運行されているが、そのあたりの事例をお話いただけないだろうか。

【委員】

あきる野市では現在3つの交通空白地域で運行しているが、エリアが広く移動時間がかかるため、使いたい人が使えない状況が生じている。乗合なので複数人を同時に乗せて、それぞれ目的地で降ろしていく形なのだが、エリアが広がったことなどで会員が増え、予約ができないケースもある。導入しているチョイソコというシステムは全国40～50箇所で開催されており、停留所を設けてバスとタクシーの中間のような形である。実感としては、無くなってしまうと困るので、お客さんが一生懸命乗って、会員を増やしているという印象である。もう1点、ライドシェアが大きな話題となっている。普通免許の保有者がお客を乗せる行為だが、二種免許はお客を乗せるために高いお金を払って取っているものである。事故発生時にどうなるかなど決まっていないうちに、ライドシェア解禁ありきで進んでいる。今後こういった地域公共交通会議でも議題に挙がってくると思うが、まだまだ導入するには早足だと感じている。

【会長】

デマンドというとドアツードアのイメージがあるが、あきる野市でやっているのは、ここの停留所で乗ります、という予約をして、目的地の停留所で降りるという仕組みか。

【委員】

仰る通りである。停留所までは出てきてもらう必要がある。定時で運行している訳ではなく、予約が入ったらオペレーターが組み合わせて調整する。

【委員】

車両はハイエースくらいの大きさか。また予約があつてそこから、パズルのようにあちこちの停留所を回っていくような形か。

【委員】

車両はトヨタのハイエースである。ルートは決まっていないので、都度一番近い道を選んで走行する。

【委員】

デマンドの具体的な事例をご紹介いただいたが、次回の会議の中でどのようなデマンドの形態になるのか示されるのか。

【会長】

デマンド交通とグリーンスローモビリティと、タクシーの利用があり、その3つの中ではデマンド交通の優先順位が高くなるのかなと思う。

【委員】

デマンドに転換した場合、今あるバス停は取り置くのか。

【会長】

今の時点ではなんとも言えない。

【会長】

お諮りするが、資料の21頁に示したような考え方をもとに進め、3月の会議の際に方向性をお示しする形でよいだろうか。

(異議なし)

(3) その他

【事務局】

再度のご連絡となるが、1月24日(火)に武蔵野コミュニティセンター、1月25日(木)に長岡コミュニティセンターと瑞穂町民会館、1月28日(日)に元狭山コミュニティセンターの4箇所で開催の意見交換会を実施する。本日ご意見をいただいたように、グリーンスローモビリティなどについても、話題性と実用性、実現性という点から住民の皆様にもご説明させていただき、意見集約していき、3月には方向性を提示できればと思う。3月の地域公共交通会議については、また改めて日程調整をお願いする。

以上